

# 研究所だより

第300号  
2010年9月30日  
発行：土佐清水市教育研究所  
TEL 82-3015

## ＜土佐清水市の伝説1（民話）＞－土佐清水市史より

土佐清水市に残る口碑、伝承、それらは文化の進展、生活の多様化の中で、忘れられ埋もれ消えてゆくものであるだけに、郷土を、その古きを遡りたずねるとき、故郷と切り離して語ることでできないもの、それが伝説であり、伝説は故里を語る唯一の伝承でもあるわけです。多くの伝説が忘れられ、消え、また変わって語られていったことでしょう。

### 【伊豆田坂の三度栗】

今より1200年程昔、一人の遍路さんが伊豆田坂道（遍路道）を下りてきて、子ども達がこの道端で無心に栗の実を取っている姿を見て、遍路さんは子ども達にその実を少し恵んでくれないかと乞うた。子ども達は苦勞してやっと手に入れた実を気持ちよく少々ではあるがどうぞ食べてくださいと差し出した。

遍路さんは大変喜び、こんな大きな木ではさぞ大変だろう、来年からは小さな木にしてあげようと約束して去った。その翌年からは小さな栗の木に無数に実がつき、それが一番下の枝より中の枝、一番上の枝というように、3回に分けて段々に実が熟れていったと伝えられている。これが今の伊豆田坂の三度栗の起源である。また、この遍路さんが弘法大師であったので大師栗とも言われている。

伊豆田坂の造林により三度栗が少なくなるのを憂い、現在、真念庵の山道に植えられている。



### 【天子ヶ森の安徳天皇御陵】

壇ノ浦の戦いに敗れた平家の武士8人は、幼い帝を守り海上を7日間漂い、漸く下ノ加江に着き、小方の百姓の家に留まるも往来の激しい所であるため、天子ヶ森（伊豆田山のテレビ塔近く）に天皇の空塚を築き、8人の武者は諸方に別れて再挙を謀ることとなる。

天皇は藤原、大塚の2臣に守られて大川内（王ヶ内）に入り、ここを安住の地と定めた。大川内部落に赤磔と言う所がある。ここに苔むした墓がある。この墓が、安徳天皇の墓と伝えられている。以前誰かに墓が掘りおこされていたが、下は岩盤で空墓であったと伝えられている。

現在も大川内には地名に都に似たものが付けられて残されていて、平家の落人の名残りと言われている。

### 【鍵掛（下ノ加江地区）の地名の起こりと地藏さん】

鍵掛部落の中程を海に下りた所に、昔の水くみ場がある。昔、その海辺に木札の地藏尊が流れていたのを部落の人が見つけ拾い上げ、今の鍵掛の地藏堂に祭司したと伝えられ、それを拾い上げるときに鍵で掛けて引き上げたことからこの地名が鍵掛となったと伝えられている。

## ＜教材本購入＞

特別支援教育に関わっての本を購入しました。通常学級でも使えます。どうぞご利用ください。

### 「特別支援教育・はじめのいっぽ」（CD付）

プリントしてすぐに使える支援教材データ（一例）

- ・課題のどこに注目してよいかかわからなくなりがちなお子にドリルやプリントで、番号が打ってあっても今どこをしているのかわからなくなる。
- ・板書のどこを写していいかわからない。
- ・漢字を書くとき、細部に間違いが多い。
- ・位取りの計算が桁を揃えて書けない。

### 「特別支援教育・はじめのいっぽ－算数のじかん」（CD付）

アイデアシートをプリントして指導できる（例）

- ・指示の理解が難しい子どもへの支援
- ・意味理解が苦手な子どものための支援
- ・細かな目盛りを読み取ることが苦手な子のために



### 「特別支援教育支援員・ハンドブック」

一人ひとりの学習上、あるいは生活上のニーズに応じたきめ細かい支援をする職として、今、特別支援教育支援員が注目を集めています。特別支援教育の推進において支援員は重要な役割を果たしていると言えるでしょう。しかし、現状では、支援員が研修を受けられる場や機会は少なく、現場で働く支援員の方々から戸惑いや不安な声が聞かれます。本書では、そういった声に応えられる方法等がまとめられています。また、先生方にも特別支援教育を体系的に学ぶためのテキストとして書かれています。活用してください。

## ＜余談＞

木ノ川谷（出合の奥）に、大色洞・小色洞と呼ぶ金の採掘洞の跡がある。これは珠々玉や木ノ川の古老が伝える伝説であるが、木ノ川谷の口、白皇宮床の奥に「たたら場」跡を確認することはできたが、採掘跡は遂に発見されなかった。これは、木ノ川の老人が童の頃「金色に光る釜場で焼いたような石を拾った」という話をもとに踏査した結果のことである。この「木ノ川の金色洞」調査は、第1回が昭和57年7月8日（2人）、第2回7月16日（8人）、第3回は清水中学校教諭・西村光一郎氏（現・しみず幼稚園園長）と生徒達20余名で踏査されたが発見されなかった。

これは土佐清水市史に載っているものですが、今から30年程前の話です。この西村先生と子ども達、今とは教育環境が異なっているとは言え、心を躍らせるものがあります。今は、とんでもないということになりそうですが、変わらないのは、教師が子どもに夢を語り夢を持たすことの大切さです。そして感動を与えることのできる教師です。

とにかく多忙な日々の中で、教師も子どもも益々ゆとり教育からかけ離れた実践を強いられています。昔を懐かしがっても駄目なものでしょうかねえ。